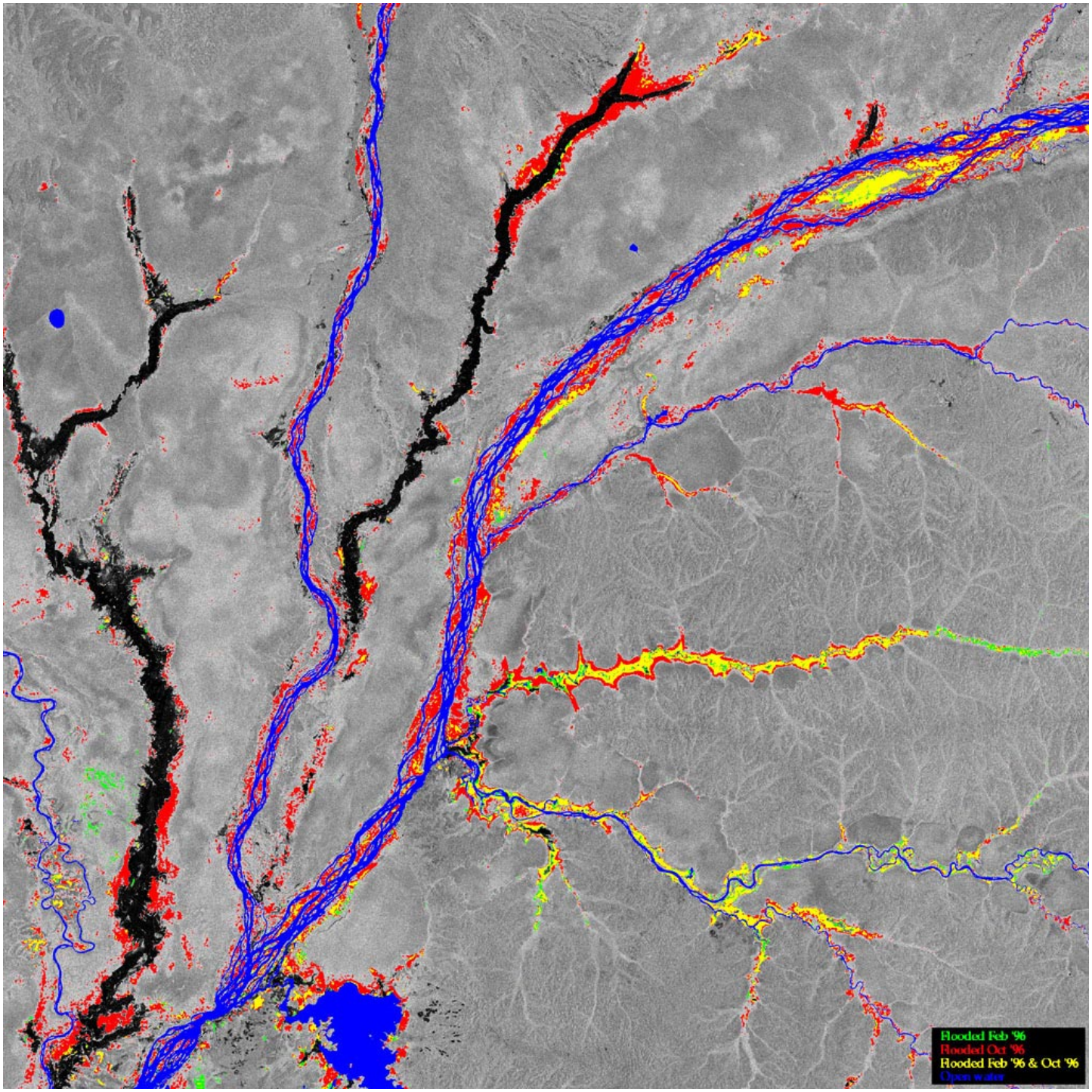
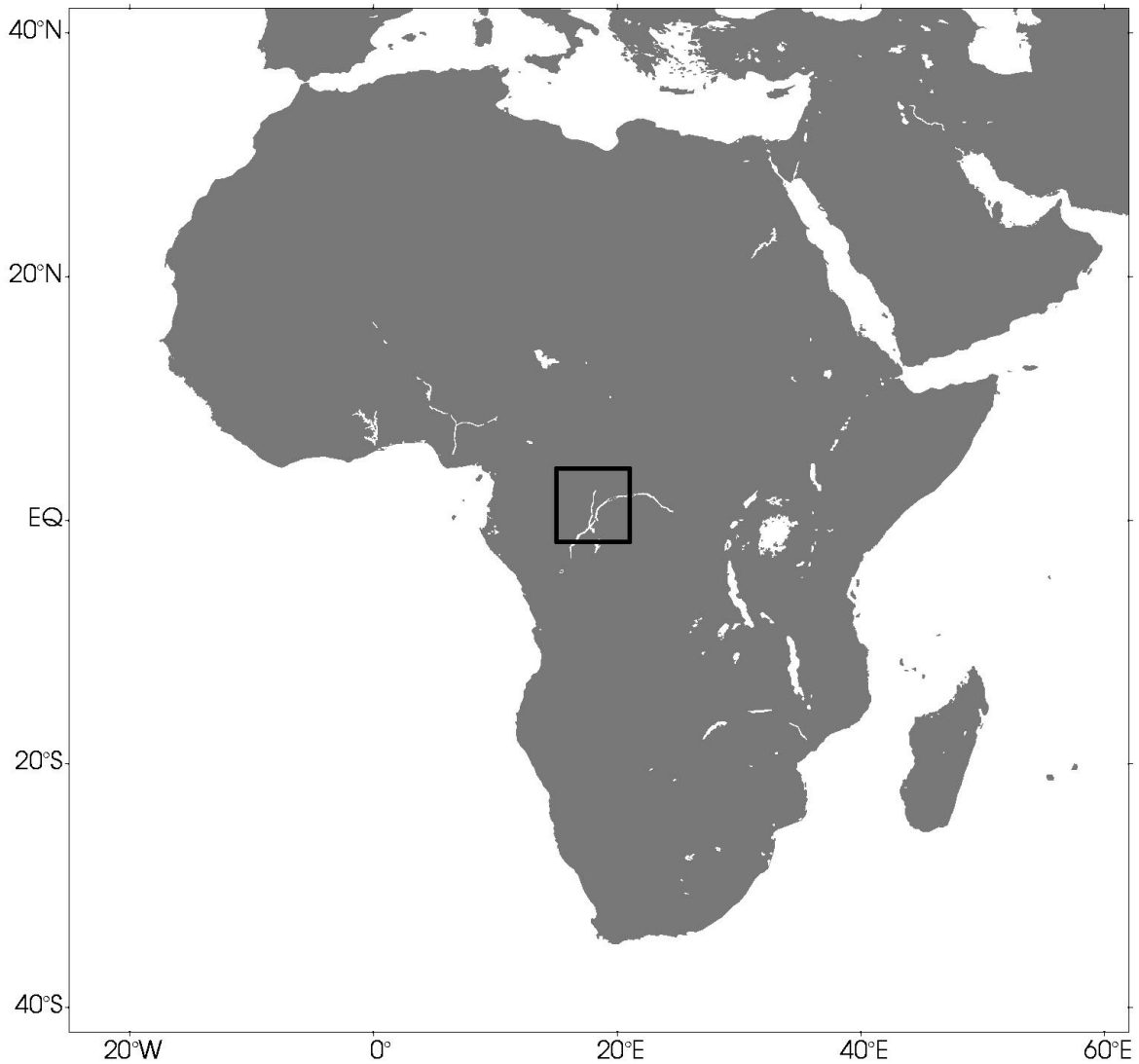
中央アフリカのコンゴ川流域の洪水域



©NASDA EORC/MITI/JRC

中央アフリカのコンゴ川流域の洪水域

JERS-1 SARデータによる多時期の合成画像は、全球熱帯雨林マッピングプロジェクトのモザイクデータセット(解像度100m)をもとに作成されました。画像の明るく見える部分は、洪水に見舞われた森林域を表わしています。画像では、赤色が1996年2月、緑が1996年11月、青がレーダーテキスチャーとして色わけされています。

コンゴ川とその支流の水位は、雨季と乾季で数m変化するといわれています。洪水地帯は、水性動植物にとって重要な生育地であり、気候変化に欠かせないメタン及びその他微量ガスの源となっています。洪水分布の正確な情報は、植物の生育可能性評価の改善と大気中に放出する微量ガスの地域分布の算出に必要とされていますが、今のところまだ、洪水の時系列かつ空間的変化の知見が不足しているため、正確な洪水量の評価がなされていません。
しかしながら、レーダーセンサは、雲を透過するだけでなく、増水によって樹冠が浸水した森林域とそうでない地域とを区別することが可能です。ここで示す画像は、異なる時期（1996年2月の乾季と同年11月の雨季）の解像度100mのレーダー画像です。双方の画像は、洪水期の空間分布を色分けしてあり、洪水域が拡大していく様子を顕著に表わしています。このように、コンゴ川流域の洪水の地域規模での評価がなされたのは、初めてのことです。